

婦人と子ども

第十八卷
第十一號

大正七年十一月八日發行

會長の挨拶

|| フレーベル會總會の開會に臨みて ||

會 長 湯 原 元 一

今日はフレーベル會の總會でありまして、斯く多數の諸君に御出席を願へたことを非常に幸福に存じます。

今日、私は別にお話し申すやうなことは御座いませませんが、一言、此度び、本會の規則を多少改正したいといふことに就てお話ししてみたいと思ふのであります。

私共は、この度び、本會の會名及び規則の中の幾干に就て改正を加へたいと思ふのであります、これは元より、本會の性質が變るのではないの

でありまして、大體に於ては、これまでと殆んど變りはないわけであります。精神に於て全然變るところのないことは、茲に私がお誓ひ申してもよろしいのであります。

さて、しかしこれまで存在した一つの會がその會名を變更するといふことに就ては相當の考慮が費されなければならぬことは申すまでもないことであります。それで次ぎに一寸、この會名變更の件に就て説明を加へてみやうと思ふのであります。

さて、我々の今まで用ゐて來た本會の會名フレ
ーベル會は、今日になつてみると、多少時勢に合
はぬやうな氣が致すのであります。今日、日本に
於ける我々の事業がフレーベルといふ如き外國人
の名を冠してゐることは何うかといふやうな感がある
のであります。成程、フレーベル氏は幼稚園の
開祖として、今日世界各國の教育者から尊崇さ
れて居るのは今更言ふまでもないことでありま
す。

しかし、それだと言つて、今日の世界の幼稚園
界は著しき進歩發達を遂げて、フレーベル氏時代
のやうな狭い、淺い意義のものではなくなつて來
てゐるのでありますから、これは何とか別の名に
變へた方が本會の事業を益々效果的ならしむる上
から言つて、より適當ではあるまいかと思ふので
あります。殊に日本に於て、特に外國人の名を冠
して置かなければならない程、フレーベル氏の名
が重要であるか何うかは、随分問題であると思ひ

ます。

以上は私がつゞ單に個人として申上げる希望に
過ぎないのでありまして、會員諸氏がこのことに
就て御討議、御研究下さることを祈つて歇まない
次第であります。

一體、幼稚園問題に關しては歐米諸國に於ても
目下盛んに論議されて居るのでありまして、中
には幼稚園無用説を述べ立てるやうな過激な人もあ
る位であります。是等は今日殆んど問題とする
に足りぬ論議であることは今更私の辯明を要さぬ
所であります。日本に於ては、今日にては、幼稚
園の存在の意義を知らない程の迂遠な識者は先づ
殆んど無いと言つてよろしいであります。要す
るに我が國に於ても、將來の幼稚園界が益々多忙
になり、幼稚園が諸所に勃興するであらうことは
火を睹るよりも瞭かであると思ひます。それに就
ては我々が幼稚園のことに就て今からいろいろ研
究して置かなければならないことが澤山あると思

ひます、例へば幼稚園に關する諸制度の制定、保
姆の待遇問題といふやうに、問題は後から後から
と續出するのであります。殊に目下は保姆の待遇
問題などは實際問題として十分討究の必要に迫ら
れて居るのであります、如何せん、肝腎の幼稚
園といふものが教育行政の上から一個の獨立した
要因と認められてゐないのであります、即ち幼稚
園といふものは現行の小學校令の附帶條項として
極めて簡單に取扱はれて居るのであります、それ
ですから、今日、保姆の待遇は小學校教員と同等
にまで引き上げたいなどと言つても、極めて出し
抜^ぬけな、唐突なこととして迎へられるのでありま
す。

小學校令中に一行か二行に書かれてゐる幼稚園
をもつと教育系統中に於て認められたるものとす
ることが必要であります、その外に尙、政府が、
文部省が幼稚園に對して何んな態度を取つてゐる
かを知らねばなりません。而して私達が政府に對

して、文部省に對して要求すべきものがあつたら
要求しなければいけません。求めなくつてはいけ
ないのであります。當局者としても相當に私達の
仕事に目をつけてゐて下さることは勿論でありま
すが、私達が聲を立てなければ、その聲に應じて
下さるわけには行くまいかと思ひます。當局の方
々もいろいろの方面に多忙であるべきを私達は察
しなければならぬのであります。

幼稚園は今日では殆んど私立に任せられて居
ります。それにしても、この私立の幼稚園に對し
て一定の完備した規則が必要であります。幼稚園
は尙多くの公共團體によつても設立せられなけれ
ばなりません。市町村立の幼稚園が個人經營の幼
稚園の他にもつと出來てもいいわけであります。
幼稚園といふものはもつと社會政策的の意味を持
つて來てもいいと思ひます、托兒所と幼稚園とは
その内容外形に於てあまり差別のないやうなもの
となる方が社會政策的には有意義であると思ひま

す。歐羅巴に於ては托兒所と幼稚園とは殆ど同じもの、やうに考へられてゐます。モンテッソリー女史の「子供の家」なども貧兒救済のためでありまして、矢張一種の社會政策の現れとみることも出来るのであります。モンテッソリー女史も富裕階級の幼兒ばかりを扱つてゐたならばあの發見もなかつたかも知れませんが、ローマの新開町の貧兒を集めて、あれこれと、幼兒の生活の改善に努めた爲めに、特殊の教育的方法を案出し得たのであると思ひます。

以上に申し述べましたやうなわけで、幼稚園事業は何うしても社會政策の一つと見られるのであります。私は、或ひは一步進めて、亞米利加と同じやうに、幼稚園の設立を市町村の義務の中に加へたら何うかとさへ思ふのであります。

幼稚園に於ける教育も、家庭に於ける教育も、その精神に於ては互ひに一致するのであります。その取る所の教育的方法に於ては、幼稚園には幼

稚園の特色と便宜があり、家庭には家庭の特色と便宜があります。幼稚園といふものは家庭以外にあつて、而かも家庭とあまり違はぬ教育を行ふところであります。それですから幼稚園といふものは何うしてもそれ自身として十分な發達を遂げなければなりません。

私は、幼稚園教育までも、公の力で行ふことが必要であると思ひます。今では小學校教育までは公の力で行はれてゐるのでありますから、一段下つて幼稚園教育まで公の力によつて行ふやうになつたら何んなにいゝかと思ひます。更に下つて胎教までも公の力で行ふやうになつたならばその時こそ、國家の教育制度は始めて一貫した完全なものとならうかと思ひます。このことは母權の保護のために當然政府が行ふべきものでありまして、獨逸などでは既に行つて居るのであります。

教育界の大體の趨勢が以上の如くであると致しますと、幼稚園の將來が益々旺んになるといふこ

とは申すまでもなからうと存じます。

たゞ私の遺憾に思ひますのは、幼稚園の孤立して居ることであります。幼稚園は小學校に對しては形式的には連絡がありますが、精神的には連絡がありません。幼稚園の教育は萬事が創作的で、何處までも自然を害はぬやうになつて居り、幼兒に獨立獨行の習慣をつけるやうに努めてゐるのであります。極めて理に積んで居ります。小學校へ行くと、もうこの幼稚園の教育説は連絡を失つて了ひます。小學校になると、生徒はもう受身であります。何でも教師に教へられて之を覺えて行くことが主となります。中學校に行つても、生徒は主にも受身的の教育を受けます。しかし大學へ行くと、受身ではなくなり、大體幼稚園と同じ精神のもとに學生は自由討究を行ふのであります。つまり一番下の幼稚園と一番上の大學とは同一精神に基く原理に従つてゐて、その中間の小學校と中學校とは注入教育に依つて居るのであります。幼稚園が幼兒の創作能力の鼓吹に努めて居るのは實に卓抜な見識であります。私は今幼稚園で行はれて居る原理をすつと上に引きあげて行つ

て、之を小學校にも、中學校にも應用することによつて、教育上の問題の大部分は解決せられはしまいかと思ふのであります。幼稚園の教育説は教育上のいろ／＼の新運動、即ち作業主義や人道主義とも一致して居るのであります。

幼稚園の原理なり、方法なりは、今日に於ても既に十分に考察されて以上の如く進歩したものとなつて居るのでありますが、この上とも、十分の上にも更に十分に研究して、全教育系統の第一階梯に於ける根柢をしつかりと築くやうに努力したいと思ひます。

以上述べ來りましたところは會員諸氏に對して申上げることとしては所謂釋迦に説法のたぐひとなるのでありますが、これによつて私が皆さんと同意見を懷抱するものであつて、今後我が國の幼稚園研究のために微力を盡さうと心掛けて居るのであることがお分りになつたらうと存じます。

以上、今日の總會を開くにあたりまして、一言皆さんに御挨拶を申上げる次第で御座います。

(文責在記者)